

「平成 25 年度第 1 回燃料電池自動車（FCV）部会」議事要旨

1 開催日時・会場

平成 25 年 10 月 24 日（木） 10：00 - 11：30 万国橋会議センター402 会議室

2 傍聴者・報道

傍聴者 0 名 ・報道 2 社

3 要旨

（1）議題 1 協議会要綱等の改正（案）について

- ・全会員に事前了承頂いている【資料 1 - 1】【資料 1 - 2】について内容をあらためて確認。
- ・【資料 1 - 3】ワーキンググループ設置要綱（案）について説明。部会員了承。

（2）議題 2 普及促進に関すること（主な発言抜粋）

【横浜市】

- ・目標年次について、先日の 4 首長懇では 2020 年東京オリンピックを活用した PR をとの話があった。
- ・2025 年に関しては、現行の CO₂ 削減目標が実際に達成が難しいということで、今後、国や自治体で議論された後、具体的な目標が出てくることが予見され、そのなかで FCCJ のシナリオも微修正がかかることを視野に入れて整合性を図っていくべき。
- ・先行整備に関しては 2015 年に 10 箇所整備完了は現実的に難しいのでは。2015 年中に、10 か所の目処をたてる、というぐらいのスケジュール感が現実的ではないか。
- ・事業適地に関して、公有地を行政財産のまま貸し付ける場合には、かなりの用途制限があり、基本的には商用施設は不可等の規制があることから、現行制度では、公有地による事業適地の確保はすぐには難しいのではないのか。
- ・例えば、まずは非商用で、災害対策という位置づけでやっていき、将来的な規制緩和をにらみながら、次第に商用に近いものに移行していくというやり方でないと、公有地を活用した整備は難しいのでは。

【トヨタ】

- ・販売計画は 2~3 年先までがせいぜい。2020 年、25 年、30 年先の話は 1 社の販売計画のレベルで語られるものではない。今ある様々な FCV 普及予測等からブレイクダウンしていくことで精度が高いものになるのでは。

【日産】

- ・販売計画はメーカーにとってはトップシークレットであり、個別にオープンに出来ないことをご理解いただきたい。

- ・ 参考として、他県の例では過去のEV、HV等の販売台数や、FCCJ予測を加味して推測していった。

【富士重工業】

- ・ 当社においてFCVは黎明期ととらえており、どういうポートフォリオに組み込むかは今段階で説明する状況ではない。また販売計画は企業として肝の部分であるので、オープンに出来ないことをご理解いただきたい。
- ・ とはいっても、2020年あたりにどうあるべきかは各メーカーとも視野に入っていると思うので、大きなところからブレイクダウンしていくのが妥当ではないか。
- ・ そのなかで具体的にEV何台、FCV何台という数字は出していくところが難しい。

【本田】

- ・ 販売計画の数字を具体的に提示することは出来ないことをご理解いただきたい。
- ・ また、今の状況下で、長期の具体的な数字を社内で作るのは難しい状況。
- ・ 長期の目標を掲げること自体は問題ないと思うが、各社個別の積み上げではなく、過去の例や状況を踏まえ、各社で議論して、こうしたところを目指していきましょう、という数字を作っていくのが妥当ではないか。

【スマエネ課長】

- ・ まとめると、次世代自動車戦略2010や、FCCJのシナリオなど、現在公にされている目標をもとに県内のFCV普及目標を立て、それに必要な水素ステーションの整備目標を立てるとというのが現実的だというご意見。そういうかたちで進めていきたい。
- ・ 水素ステーションの整備目標について、インフラ事業者さんのご意見はどうか？

【岩谷】

- ・ 水素ステーションの先行整備目標として、首都圏40か所ということについては、割合としては妥当と考えている。
- ・ 当社が、40か所、そのうち県内10か所というなかで何か所担えるかは検討中だが、土地の確保が難しいという問題もあり、現時点では非常に厳しい状況。

【JXE】

- ・ FCCJで、首都圏40か所という議論をしたときには、自動車の保有台数が、4大都市圏でどういう割合になっているかということと、現在の自動車保有台数の割合に沿ってFCVも普及するだろうという予測のもと、議論が進んだと記憶している。
- ・ 神奈川県10か所の妥当性についても、同じような考え方で、自動車の保有台数等の割合がひとつの目安になるのでは。

- ・今年度3か所整備ということで手を挙げているが、これは神奈川県特有の問題ではないが、周辺住民との関係や、事業者との関係から難航しているところもある。
- ・来年以降、どこまで整備を進められるかは、当社以外から手が上がってこないと厳しいし、周辺住民や、事業者との関係のなかで、どこまで機運を高めていけるかが今後の課題。

【東京ガス】

- ・当社は、今年度手を挙げたのは、東京と埼玉ということで、その後の建設計画については未定で、自動車の出方を見て判断していくことになる。
- ・よって、神奈川県10か所という目標に関しても、当社の建設計画は未定である。基本CNGスタンドとの併設となり、GSに比べ候補となる場所自体が少ないなかで、今後どのように整備していくかについては宿題があるという状況。

【横浜市】

- ・公有地貸付について、市の例でいうと、公園用地には上物を作れないし、下水道用地に関しては、商用目的の上物を作ることはできない。災害用という位置づけにしていけないと設置が難しいのでは。国の方でも災害対策という視点で補助を打つとなれば、状況は変わってくる可能性はある。
- ・いずれにしろ、私有地と公有地は、きっちり分けて考えていかなければならない。

【JXE】

- ・共通の問題として、現在の建設補助は、あくまで設備の初期高コストな部分に対する補助と理解しているが、建設後、一定期間、自動車が増えていかないなかで、運営を維持するためのサポートが課題として残っている。
- ・単なる金銭的支援だけでなく、ある地域でまとまった需要を作るような施策や、税制的支援、またオリンピック向け施策や、バスの導入など、需要面と一緒にして具体的に考えていくことで、苦しい時期を、少しでも苦しくなくできるのではないかと考える。
- ・事業適地の問題についても、そういった普及の絵姿や、それに関わる支援等と一体となって議論していくことで、議論が進んでいくのでは、と考えている。

【スマエネ課長】

- ・バスに関して、交通局を持つ、横浜市、川崎市の動きがあれば教えて欲しい。

【横浜市】

- ・バスに関しては、横浜旭のステーションは水素単独型ということでJXさんに整備していただいているところだが、ズーラシアが近くにあり、例えば横浜線中山駅や、相鉄沿線へのバスとして活用できないかと考えている。
- ・バスについては、生産見込みや、価格、国補助の当てなどが不明ななかで、具体的な導入計画に

について述べることは出来ないが、実際にバスが出てくると言われている 2016 年までに、今ある実証用車両を使って課題の洗い出しを行い、その結果等もあわせて検討していきたい。

【川崎市】

- ・川崎市としては、これからの課題ということで、交通局と今後、情報交換を行っていききたいと考えていることから、現時点で具体にご説明することはない。

【トヨタ】

- ・バスはグループ会社の製品であり、現在、協議をしているところだが、16 年に出すことを前提に開発しているということだけ、お伝えしておきたい。

【課長】

- ・小型の水素ステーションや、移動式の活用についてはいかがか？

【J X E】

- ・移動式は魅力的で、今後、視野に入れて考えていきたいが、適地の選定もそれによって変わってくるので、いろいろと勉強しながら議論し、進めていきたい。
- ・目標の設定が困難という話だが、高い志のもと、旗印となる目標、特に自動車の台数の目標は我々にとっても、検討の拠り所となるので、地域の目標をぜひ掲げていただきたい。
- ・国の方からも近々、大きなシナリオが出ると聞いており、例えば、それを割りかえして神奈川県は平均で行くのか、平均に加えた数字にするのか等、考え方はあると思う。
- ・いずれにせよ一つの目安として、事業者側にそれを達成するためには、これだけ整備が必要だというような投げかけがあれば、俄然、事業者側の機運も高まると思う。

【課長】

- ・その他のご意見はいかがか？

【横浜市】

- ・神奈川県内に 10 か所ということだが、2015 年というところで区切ってしまうと実現は難しいと考えているがいかがか？

【スマエネ課長】

- ・県内 10 か所は、あくまで目標。首都圏 40 か所を 4 都県で割ったもの。

【横浜市】

- ・県内 10 か所は、整備完了ではなく 2015 年までに 10 か所目途をつけるというイメージで良いか。

【スマエネ課長】

- ・ それで良い。

【スマエネ課長】

- ・ 移動式水素ステーションの活用に関する課題、場所の制約等はあるか？ある場所に曜日や時間帯を決めて移動式が来るということも可能なのか。

【太陽日酸】

- ・ 高圧ガス保安法に則ってクリアすべき条件がある。例えば第1種、第2種保安物件からの離隔距離など。
- ・ 例えば経済産業省の中庭のような場所があれば、曜日や時間帯を決めて来ることは可能。
- ・ ただクリアすべき課題として1点目は、車両が巨大なので、運用者の問題は解決しないといけない。
- ・ また2点目は、70Mpaで充填をするため蓄圧機に関しては、特認を得る必要があるが、その場合、蓄圧機の使用期限が3年という課題もある。

【スマエネ課長】

- ・ 今回の議論を含めて、具体的な内容や課題など、細かいところはワーキンググループで議論していき、年度内に整備促進の最終案をとりまとめたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

(3) 議題3 産業振興に関すること

【スマエネ課長】

- ・ (NEDO事業説明会の概要、燃料電池関連調査について説明)

【タツノ】

- ・ 今ここにいらっしゃる各社に関連する技術の提案、相談等もされていると思うので、県だけでなく、関連企業も含めて何かサポートできる仕組みがあっても良いのではと考える。

【トキコテクノ】

- ・ 各固有の技術の情報共有は非常に難しいが、それが、本当に共有が出来て、かつ発展性あるものであれば良いと感じている。

・

【スマエネ課長】

- ・ 個別に欲しい技術というものが各社おありだと思うが、そうした技術を持つ中小企業を県が調べてきた場合等は、個別、もしくはワーキング等で各社にご相談させていただきたい。

【富士重工】

- ・ 具体的にどのような企業があるのかというリストを見せてもらうことが出来るものなのか。
- ・ そういった企業があるなら、話を聞いてみたい。

【スマエネ課長】

- ・ 水素に関して県内のどの企業がどんな技術を持っているのかというリストが現在手持ちにあるわけではないので提示するのは難しい。
- ・ これまで他分野での企業の情報はあがるが、それを水素関連分野に結びつけたり、技術の掘り起こしをどのようにやっていくかというところが難しいと考えている。

【東京ガス】

- ・ F C Vと水素ステーションに関して進めて行くという神奈川県の実績はどんどん進めて欲しいと考えている。
- ・ 県内の水素ステーションの稼働率を上げていくという方向に持って行って、早くステーションの事業性についても実現させ、結果、自動車の台数をカバーできるキャパシティが生まれるという好循環を、自動車メーカーと、インフラ事業者との間で生み出してしていく先駆けになれば良いと感じている。

【スマエネ課】

- ・ 稼働率向上ということでは、県の財政状況も厳しいなかで公用車の率先導入がどこまでできるかわからない部分もあるが、頑張っていきたいと考えている。

(4) その他

【スマエネ課長】

- ・ (今後のスケジュール等について説明)

以上